

天竜川と周辺の水田におけるサギ類

西箕輪小学校 小林高志

1 はじめに

2002年から天竜川の新水神橋から大久保橋の間で、サギ類の種類及び個体数変動を調べ始めた。数年後夏から秋にかけて南箕輪村の水田でサギ類の個体数が増えているように感じたため、2007年から南箕輪村の水田においても調査を行ってきた。その後2010年より伊那市～箕輪町にかけての天竜川沿いの水田、2014年から伊那市ナイスロード沿いの水田と東春近の水田での調査も始めた。それぞれの水田でのサギ類の個体数変動についても述べたいと思う。

2 調査地及び調査方法

調査地は伊那市の新水神橋から宮田村の大久保橋までの天竜川である（図1）。調査は、月1回夜明け頃から始め、3時間くらいかけて調査地を自動車で移動しながら、双眼鏡やスポッティングスコープを使って、出現したサギの種類・個体数（わかるものについては雌雄）・行動等を記録した。サギ類以外でも似た生活をしているものについては記録を残すようにした。調査地内では、水害に備えての河川工事が行われ、流れが大きく変わったところが毎年あった。水田の調査（図2）は、天竜川の調査の前後の時間帯で行い、調査方法は天竜川の調査と同様である。

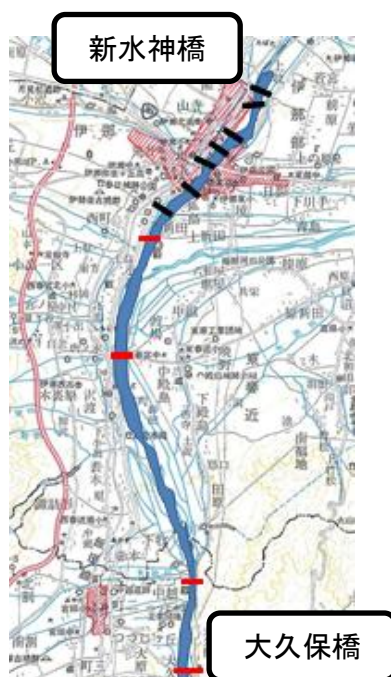


図1 調査地概要(天竜川)

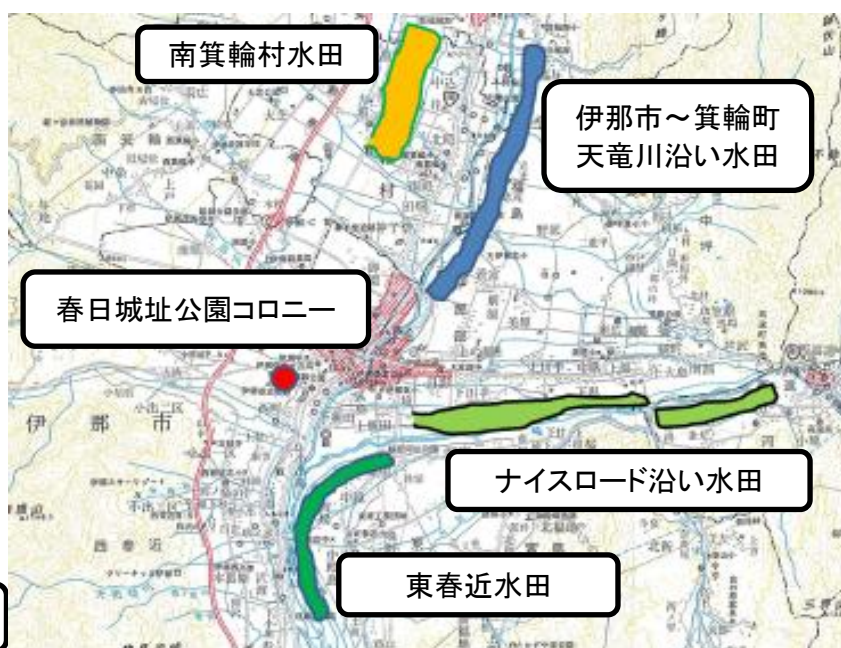


図2 調査地概要(水田) (地図は上伊那地図より)

3 結果及び考察

(1) サギ類の年別出現状況

表1 サギ類の出現状況(2003～2024)

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
アオサギ	350	251	239	326	278	227	182	169	187	223	186	261	176	170	141	155	99	185	146	93	87	145	4276
ダイサギ	135	162	85	225	274	118	134	222	161	183	173	269	160	107	133	109	75	73	140	102	87	125	3252
チュウサギ	1	1	1	4		3		1	2														13
コサギ	67	42	42	94	62	14	15	26	67	72	42	18	37	16	13	10	10		5				652
ゴイサギ	113	95	60	32	11	12	15	6	18	2	3	8	11	16	30	6	6	2		5	1		452
アマサギ	1	1	4																				6
ササゴイ	0	0	2	5	1	1																	9
合計	667	552	433	686	626	375	346	424	435	480	404	556	384	309	317	280	190	260	291	200	175	270	8660

本調査地においては、上記の通り、7種類のサギ類が観察されている（表1）。
 アオサギは2003年をピークに徐々に減少傾向が見られる。
 ダイサギは増減を繰り返しながら、2014年にピークとなり、徐々に減少傾向にある。
 コサギは増減を繰り返しながら、2012年以降減少傾向が見られる。
 ゴイサギは2003年には113羽も見られたが、その後減少している。これは、ゴイサギが休息場所としていたカワヤナギが、水害により流されてしまったことが原因と考えられる。
 ササゴイは2005年から2008年まで新水神橋と水神橋の間で見られたが、それ以降は出現していない。
 アマサギは2003年から2005年まで見られたが、それ以降は出現していない。

(2) サギ類の月別出現状況

表2 サギ類の月別出現状況（2024）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アオサギ	3	11	3	5	5	6	15	19	53	7	8	10	145
ダイサギ	6	7	4	9	9	1	2	17	54	1	5	10	125
チュウサギ													
コサギ													
ゴイサギ													
アマサギ													
合計	9	18	7	14	14	7	17	36	107	8	13	20	270

本年のサギ類の月別出現状況（表2）を見てみると、アオサギ、ダイサギともにほぼ1年中見られることがわかる。両種ともに、8～9月に一番多く出現しているが、巣立った幼鳥をつれた家族が、川で採食するためと考えられる。ゴイサギは毎年、5～8月にかけて観察されていたが、今年は、観察されなかった。コサギは減少傾向で、観察されなかった。チュウサギやアマサギは、田んぼで生活しているため、殆ど川で見られることはない。

(3) サギ類の場所別出現状況

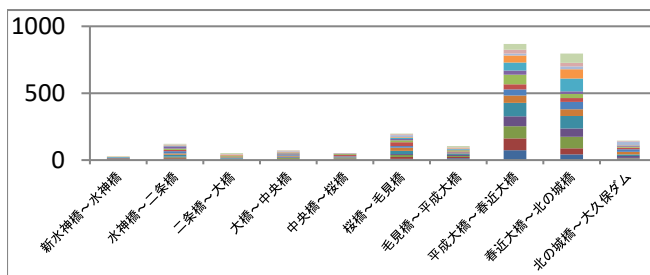


図3 アオサギの場所別出現状況（2010～

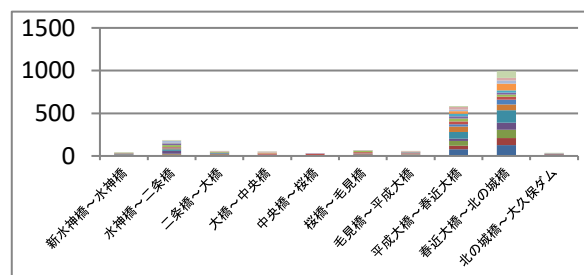


図4 ダイサギの場所別出現状況（2010～2024）

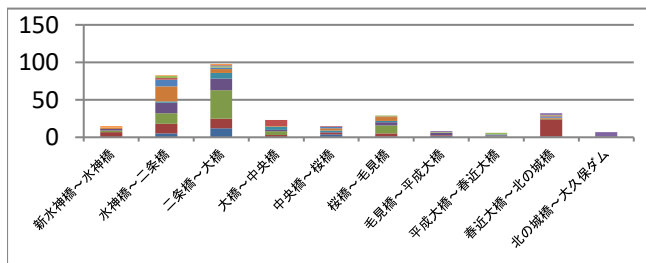


図5 コサギの場所別出現状況（2010～2024）

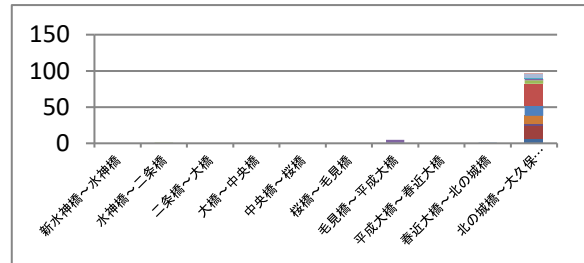


図6 ゴイサギの場所別出現状況（2010～2024）

アオサギ、ダイサギ、コサギともにどの場所にも出現している。アオサギやダイサギは、平成大橋から北の城橋間で多く見られている。コサギは水神橋から大橋間で多く見られた。ゴイサギは出現する場所が、大久保ダムに限定されていた。これはゴイサギが安心して採食できる環境であるためと考えられる。

(4) 水田におけるサギ類の出現状況

① 南箕輪農道東側水田のサギ類の年別出現状況

表 3 南箕輪農道東側水田におけるサギ類の年別出現状況 (2007～2024)

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
アオサギ	3	40	55	54	49	54	31	78	55	71	65	62	45	67	30	38	56	55	908
ダイサギ	71	143	184	201	186	255	202	198	120	117	164	162	108	106	80	52	98	115	2562
チュウサギ	24	11	12	39	5	1	2	6	2	19	5	2		8		2	5	1	144
コサギ	1	1	9	21		3	1	1		3	2			1					43
ゴイサギ		1																	1
ササゴイ																			
アマサギ	3	20	2	5	1	8	7					1		4					51
合計	102	216	262	320	241	321	243	283	177	210	236	227	153	186	110	92	159	171	3709

この調査地では、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギ、アマサギの6種類のサギが見られた(表3)。ダイサギが一番多く、次いでアオサギ、チュウサギ、アマサギ、コサギ、ゴイサギの順であった。2008年～2018年ごろまでは毎年200羽を超えるサギ類が見られていたが、それ以降減少傾向にある。特にダイサギは、2009年～2014年まではほぼ毎年200羽前後の個体が見られていたが、それ以降減少傾向にある。チュウサギ、コサギ、アマサギもだんだん見られなくなってきており、ここ4年間は、アオサギ、ダイサギ、チュウサギの三種類だけが観察された。

② 伊那市～箕輪町間の天竜川東岸の水田におけるサギ類の年別出現状況

表 4 伊那～箕輪間天竜川沿い水田におけるサギ類の年別出現状況 (2010～2024)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
アオサギ	3	3	16	6	15	8	16	22	16	6	2	6	13	12	21	165
ダイサギ	18	6	40	35	18	23	22	65	38	16	31	23	29	34	40	438
チュウサギ	16	11	7	17	6	1	13	12	8	6	9	4	7	1	9	127
コサギ			1	3	5	2	5	5								21
ゴイサギ					1											1
ササゴイ																
アマサギ	24	3		7				5	1			3	0			43
合計	61	23	64	68	45	34	56	109	63	28	42	36	49	47	70	795

この調査地では、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギ、アマサギの6種類のサギが見られた(表4)。ダイサギが一番多く、次いでアオサギ、チュウサギ、アマサギ、コサギ、ゴイサギの順であった。ここまでは南箕輪村の水田と似た傾向ではあるが、この調査地の特徴は、チュウサギの出現数が多いことである。しかし、最近は数が減ってきている。2012年～2017年ごろまではコサギが毎年見られていたが、それ以降は見られていない。ゴイサギは2014年に1羽観察されたのみである。

③ 伊那市ナイスロード沿いの水田におけるサギ類の年別出現状況

表 5 伊那市ナイスロード沿い水田におけるサギ類の年別出現状況 (2014～2024)

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
アオサギ	2	2	10	6	3	4	6	1	4	10	13	61
ダイサギ	16	19	17	8	4	7	9	1	4	3	14	102
チュウサギ								1				1
コサギ												
ゴイサギ							1					1
ササゴイ												
アマサギ												
合計	18	21	27	14	7	11	16	3	8	13	27	165

この調査地では、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、ゴイサギの4種類のサギが見られた(表5)。ダイサギ、アオサギ、の順に多くはなっていたが、ほかの調査地に比べ数は少なめであった。チュウサギとゴイサギは、11年間で1羽ずつと大変少なかった。

④ 伊那市東春近の水田におけるサギ類の年別出現状況

表6 東春近水田におけるサギ類の年別出現状況（2014～2024）

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
アオサギ	1	14	5	18	10	12	8	16	11	25	27	147
ダイサギ	15	34	11	19	17	30	18	38	30	48	71	331
チュウサギ		8	1	4		6	5	1	3	4		32
コサギ	2	6	2									10
ゴイサギ	3	4				2						9
ササゴイ												
アマサギ	2	15				12		3			2	34
合計	23	81	19	41	27	62	31	58	44	77	100	563

この調査地では、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギ、アマサギの6種類のサギが見られた（表6）。ダイサギが一番多く、次いでアオサギ、アマサギ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギの順であった。この調査地は、春日公園の集団繁殖地にいちばん近くアオサギ、ダイサギ、チュウサギなどが毎年のように見られている。コサギ、ゴイサギ、アマサギは最近は減少傾向にある。

(4) 各水田におけるアオサギ（上段）とダイサギ（下段）の月別出現状況

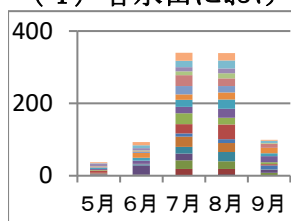


図4南箕輪アオサギ月別（2007～2024）

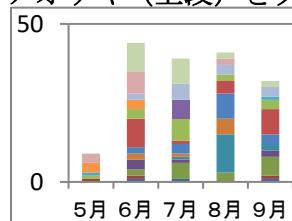


図6伊那～箕輪アオサギ月別（2010～2024）

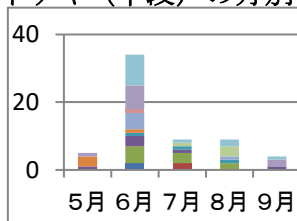


図8ナイスロードアオサギ月別（2014～2024）

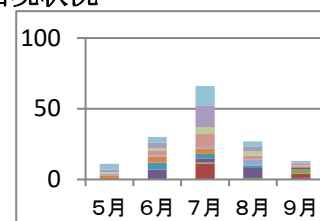


図10東春近アオサギ月別（2014～2024）

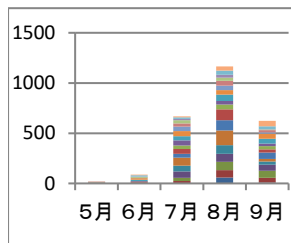


図5南箕輪ダイサギ月別（2007～2024）

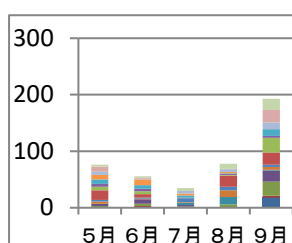


図7伊那～箕輪ダイサギ月別（2010～2024）

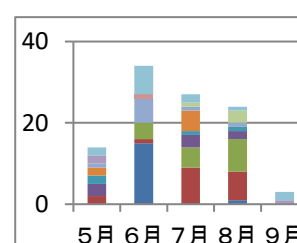


図9ナイスロードダイサギ月別（2014～2024）

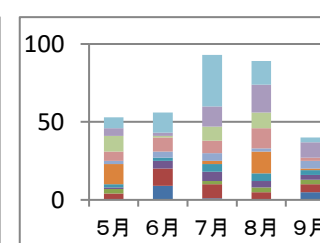


図11東春近ダイサギ月別（2014～2024）

南箕輪の水田では、アオサギ、ダイサギともに7月から急激に数を増している（図4・5）。これは子育てによる増加と考えられる。伊那箕輪間やナイスロードの水田は6月に増加する傾向がみられた（図6・8・9）。東春近の水田は7月にやや増える傾向がみられた（図10・11）。伊那～箕輪間のダイサギは、5～7月にやや減少し8・9月と増加する傾向がみられた（図7）。地区によって出現する時期や個体数に違いがみられるのは興味深い。

4 おわりに

天竜川のサギ類については、アオサギ、ダイサギは1年を通じて見られ、ゴイサギは繁殖期のみ見られることがわかってきたが、ゴイサギは本調査地では数がだいぶ減ってきている。コサギも数が減ってきている。アマサギやチュウサギは田んぼで主に生活しているため川ではほとんど見られない。

水田のサギ類については、水田に水が入るころに見られるようになり、田んぼに水がなくなるころには見られなくなることがわかった。南箕輪の水田では7月～8月にかけては、繁殖した親子連れがえさを取りにやってくるため急激に数が増える傾向がみられた。南箕輪村の水田では、2008年～2018年ごろまでは毎年200羽をこえるサギ類が見られていたが、それ以降減少傾向にある。特にダイサギは、2009年～2014年まで毎年200羽前後の個体が見られていたが、それ以降減少傾向にある。水田も地区によって出現する時期や個体数に違いが見られることがわかってきた。チュウサギ、コサギ、アマサギはだんだん見られなくなっているように思う。

